

17. 子牛市場出荷成績向上に向けた取組

東部振興局

○宮本宙輝・正田益資

【背景・目的】

体測結果に基づいた子牛発育改善指導の資料とするため、当局では母牛飼養頭数10頭以上農家(H30年度27戸)から出荷される去勢子牛を対象に市場出荷時の体高、胸囲の測定を継続実施している。(体測実施頭数 H30年度 274頭、R1年度 173頭)

その中で、肥育経営から繁殖経営へと転換しH29より出荷を開始したA生産者の出荷成績について注視してきたが、H30になっても改善が見られなかったことから、重点指導農家と位置づけ関係機関一体となった改善指導を行ってきた。

今回、一定の改善が見られたことからその取組内容について報告する。

【取組内容】

1 どの発育ステージで増体が落ちているのかを調べるため、生産者に聞き取りを実施したが生産者自身把握していなかったため、選定した個体について哺乳期から出荷直前まで毎身体測(体高・胸囲・腹囲・体重)を実施し、給餌状況等の関連性を検討した。また、体測を開始したH30.9以降に出生した子牛も同様に体測等行った。

2 想定された哺乳期における栄養不足改善のため、生産者が従来使っていた哺乳マニュアルの見直し(ミルクの変更及び給与量の増加)を提案し、離乳後については給与飼料を定量すること、増体に応じた配合飼料と粗飼料の給与を提案した。

【結果および考察】

1 体測の結果、生後100日前後に行う離乳時の平均が体高 σ -0.53、胸囲 σ 0.22と低く、出荷時においても体高 σ 0.2、胸囲 σ -0.4と改善されていなかった。なお、出荷時の日齢体重は0.93kg/日で価格は649千円(税抜)(市場平均751千円)であった。

考察の結果、離乳時までの増体不足の要因として哺乳期の栄養不足が、離乳後については粗飼料と配合飼料の給与バランス等に課題があると推測された。

2 ミルク給与を見直した結果、離乳時の体高 σ が0.92と改善され(胸囲 σ は0.1と改善前より若干低下)、生産者も見目が変化したと認識されていた。また、離乳後についても体測結果を基に設計した飼料給与により、出荷時の体高 σ が1.25、胸囲 σ が0.55と改善し、その結果、日齢体重、価格も1.04kg/日、734千円(税抜)(市場平均741千円)まで改善した。

まだ満足出来る成績では無いが、上記の改善が行えたことでA生産者も改善意欲を持ったようで牛舎に居る時間が長くなり、途中増体が落ちた牛も原因を探求し、翌月の体測では改善するようになってきている。

A生産者については今後とも胸囲、体高の更なる改善を図り市場平均の突破を目指すこととしているが、この結果を他農家へと波及させていくこととしている。